

令和6年度

# 府中町原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式

原爆投下から79年を迎えた令和6年8月6日、原爆慰霊碑のある役場河川敷で、府中町原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が行われ、町内小中学校の児童会・生徒会の代表が参加しました。式では、生徒会代表が、小中学生が作成した千羽鶴を奉獻するとともに、平和へのメッセージを述べました。

## 平和へのメッセージ

みなさんは日常の中に新しい『変化』を感じることはありますか。

私たちの学校生活は、マスクを外して相手の表情を見ながら会話をする機会が増えました。給食の時間では班机にして会話を楽しんでいます。また、行事や部活動を通して他学年の交流が活発になり学校全体がより明るい雰囲気になってきました。

また、日本に目を向けると、先月私たちの身近なものに25年ぶりの変化がありました。それは日本のお札です。キャッシュレス化が進んでいますが日本のお札には世界に誇る技術が詰まっています。

そして、世界に目を向けると今はオリンピックが行われています。私たちの先輩の福部真子選手も参加しています。オリンピックにはスポーツを通して、文化、国籍を乗り越えて平和でよりよい世界の実現に貢献するという思いが込められています。3年前の東京オリンピックは、コロナの影響で無観客で行われていましたが、今年のパリオリンピックでは多くの声援が飛び交い、スポーツを通して世界全体がひとつになりました。私は、どの選手に対しても国籍問わず、会場で応援している姿に感動しました。

79年前の今日。広島市の街にも大きな変化がありました。原子爆弾が落とされたとき、人々は何をしていたのでしょうか。朝食を食べている子供、通勤中の大人、建物疎開作業をしていた若者。その人たちの命は、一発の原子爆弾によって一瞬にして奪われ、広島は人々の悲しみで埋め尽くされました。しかし、広島の人々はあきらめることなく、原爆が投下されても復興を誓い、緑があふれる豊かな街へと変化させていきました。

当時の様子を伝える語り部にも変化が起きています。被爆経験者が少なくなっている今、平和な世界を守ろうとする気持ちが薄れていくことに、私は不安を感じていました。そんな中、被爆者から話を聞いて、それを伝えていく若い伝承者がいることを知りました。その姿から、私たちも原爆の恐ろしさを知り、考え、伝えていかなければならないと気づきました。

「知る。考える。伝える。」

一人ひとりが考え、行動することで世界、未来はきっと変わるはずです。

そのために、平和とは何かを考え、語り合うことが大切です。

私たちは、どんな変化が起きても平和な未来に向かって学び続けていきます。

府中中学校 武智 亮太  
府中緑ヶ丘中学校 田儀 桃菜



府中小



東小



北小



府中中



府中緑ヶ丘中



南小



中央小

変化の多い現在、平和とは何か「知る・考える・伝える」ことで平和な未来につながると、府中中学校 武智君、府中緑ヶ丘中学校 田儀さんが思いを込めて語りました。

町内小中学校の児童生徒が平和への祈りを込めて作成した千羽鶴を府中中学校 山口さん、河野さん、府中緑ヶ丘中学校 金平さんが奉獻しました。